

脳脊髄液減少症の治療(ブラッドパッチ)の自賠責保険適用を求める署名にご協力いただいた皆様

北海道最北の地、稚内からほど近い豊富町にお住まいの協会員、石郷岡 縁様から、自賠責署名を実施したいので、ぜひ協力してほしいというお話があったのは、文部科学省への署名提出からわずか3日後の11月20日でした。

署名を行うのは大変な労力が必要です。署名が終わってすぐ、また、協会員の皆様に御協力いただくのは、どうなのだろうかと考えました。

そこで、自賠責の署名を行う価値があるのかどうかを渡辺孝男脳脊髄液減少症ワーキングチーム座長始め多くの方に相談をしました。その結果、「署名をする意義がある」との私自身結論に達しました。

全国署名の世話人ともなれば大変な労力を必要とします。

私が心配したのは、石郷岡様一人で、対応できるだろうかということでした。その考えは、すぐ杞憂に終わりました。石郷岡様の御家族や親戚の皆様が協力をしてくださるということをお聞きしたからです。

それではと、署名活動開始を決定し、当協会理事会において、協会として全面的に応援する方向性を決定しました。すぐに、全会員へ連絡をして、当協会ホームページ上でも、署名開始の告知をしました。署名の実質活動期間は、わずか60日。当初の目標は、2万でした。

しかし、北海道から沖縄まで、会員は、もちろんのこと、会員以外の方から多くの署名が豊富町に届きました。

その数7万2403人。確かに石郷岡様さまより、委託を受け、本日2月15日、多くの同士とともに、冬柴国土交通大臣に提出いたしました。

国の対応としましては、

「冬柴国土交通大臣は、要望に対し2008年度予算における自賠責保険の研究費を計上し、前向きに検討する考えを示してくださいました。

又、16日閣議後の会見で、北海道新聞社の質問に対し「(事故との)因果関係などに学説上ある程度のコンセンサスができた段階で判断したい」と述べ、日本脳神経外科学会が今秋をめどに策定する診断・治療ガイドラインを踏まえ、対応を検討する考えを示してくださいました。

」というものでした。

今回、極寒の地より署名協力にご尽力くださった、石郷岡様、また、ご家族・ご親戚の皆様、そして、多くの署名をお送りくださった皆様に、心より深く感謝申し上げます。

簡単では、ございますが、御礼の手紙とさせていただきます。

平成19年2月 17日

鞭打ち症患者支援協会

代表理事 中井 宏

